



# 行き詰まったら読め! (受験生に残された日々) 過ごし方

●受験シーズンも半ばを過ぎ、公立高校の後期入試と私立大学の一部及び国公立大学入試を残すのみ。中3生は疲れているようだ。高3生はもっと疲れている。しかし、ここで停滞してはいけない。最後まで目標に向かって努力するのだ。

●苦しい時、うまくいかない時、周りの人はキミに様々なアドバイスをしてくれる。思い余ってキミのほうから相談に行くかもしれない。でもなかなかうまくいかない。みんなキミのことを心配しているのだが、キミが求めている答えは返っていない。キミもズレているし、周りもズレているのだ。少し具体例をあげよう。



●こんな会話が日本中で繰り返される。かわいそうだ。本当にかわいそうだ。キミもキミの周りの人も。で、私は自分の子供達に適切に対応したかといえ、やはりズレていたと思う。自分の子供には、ゆとりがもてなくて、思うことを一直線にぶつけていたような気がする。親とはそういうものだ。

●さて、受験生を教えている立場として、私も当然キミ達のことを心配しているし、祈っている。少しでもいい状態で受験に臨んでほしいと切に思う。そこで、微力ながらアドバイス。因みに私は、プラス志向という言葉が嫌いだし、受験でも散々苦しんだので、少しはキミの心に近づけるかもしれない。

●まず、次の各項目を読んで該当するものにレをつけてほしい。グループが3つある。

- A**
- 間に合わない。
  - 自分だけが伸びていない気がする。
  - 不台格になったらどうしよう。
  - 問題が変わったらどうしよう。
  - 他の人は伸びている気がする。
  - 本番で失敗しそう。

- B**
- 自信が持てない。
  - 集中力が続かない。
  - 焦りがあるのに行動できない。
  - 自分に価値がない。
  - 不安で眠れない。
  - 腹の調子がずっと悪い。

- C**
- 親兄弟が優秀。自分だけがバカ。
  - もっとやってあげばよかった。
  - 時間に縛られる。
  - 勉強が嫌い。
  - 時間が足りない。
  - 親が嫌い。孤独。

●これは、過去の高3生と一緒に作った「心の地図」と呼ぶリストの一部である。40項目あって、30以上にレが入った人が何人もいた。みんな苦しんでいるのである。そして、ここから大事なのだが、この18項目で自分に該当することをキミは、全部他の人に言えるだろうか。自分ではいつでも書き出せるだろうか。無理である。キミの心は、同時に複数のことを感じることはできないので、

**A・B・C**の間を行ったり来たりしているのだ。

キミの心は、他の人にはなかなか分からないし、何よりキミ自身にも分からないものなのだ。仮に全部言えるとしても、今度は苦しくてきつと泣き出してしまおうだろう。

●ともあれ、キミ達は進まなければならない。そのため、先の表を使って、心の整理をしよう。まず、**A**は、事実か想像か? 全部想像である。やってみないと分からないことである。こんなことを心配して、今までいいことがあったかい? 1回もなかったはずだ。当然! 「合格したい」という自分の願望を裏切っているからだ。キミのこの1年間は、**A**を想像して自分の願望を裏切るため

にあったのか? よく考えろ。**結論!** **A**を思うことは自然である。自然だから消そうとしなくてもよいし、また消すのは無理。思ってしまったら、「また来た。仕方ない。とにかく今、やれることを精一杯やろう。」と言い聞かせること。

●次は**B**グループ。**A**グループに心を奪われていたので**B**になる。自信は待っていても出ない。集中できないのはやらないから。焦りはやらないから生まれる。やらないから自分に価値がないと思う。やらないから不安が大きくなる。やらないから腹の調子も悪くなる。みんな、順番が逆なんだ。**結論!** **B**を思うのは自然である。まず**A**を

**B**を感じたら、持ったまま「また来た。仕方ない。とにかく今、やれることを精一杯やろう。」と言い聞かせろ!

●**C**グループ。これはあきらめろ。終わったことだし、勉強が好きな奴なんかいない。あきらめろ。

●さあ、もう一度 **A・B・C**を見よう。再度言うが、思うのはよい。大事なのはキミがどうするかだ。**A・B・C**に心を向けて時間を過ごすのか、持ったまま、自分の夢に向けて精一杯やれることをやるのか。自分で決める。

●最後に。ある大学受験生の話をする。彼女は、3校連続で、自分の名前しか書けなかった。そして、第一志望の入試の前夜泣きながら飛び込んできた。ティッシュを渡して泣くだけ泣かせた。そして1時間かけて気持ちの整理をさせた。弱虫だ

った。3校連続、白紙で答案を出すなんてありえない。そして、第一志望立教大学。無事合格。彼女は勇気を出した。弱い自分を持ったまま道を拓いたのだ。キミにもできる！ (小林(健))

## 勉強は苦痛ですか？

いよいよ2月も終わろうとする時期です。入試も最終に差し掛かっていますが、また今年度も無事に終わるだろうかという気持ちがあります。

ところで勉強に興味を持てるようになるにはいったいどんなきっかけが必要なのでしょう。以前のNEWSで私は中学・高校と勉強はしなかったと書きましたが、興味のある教科(分野)については多少なりとも勉強したと書いています。当時私の興味は様々な分野に向いていました。音楽が好きでしたから音楽制作、いい音を作り出したかったので音楽機材設計、バイクが好きだったので交通機材設計、教師という職業にもひかれていたので教育、動物が好きだったので獣医、農学系、はたまた情報系、たまたま授業を受けた歴史で政治史に興味があったので史学……。そして社会福祉にも興味があったので社会学。よくもまあ今更ながら様々なことに興味を持ったものでした。結果としてその頃の私には合っていた工学系の道に最初は進んだのですが、今でもその分野の勉強はそれほど嫌がらずに多少はやっていると

ます。社会人になってからまわりの人と大学生時代の勉強について話した時、全然面白くなかったという言葉に若干の違和感を覚えたのも事実です。その意味では私は恵まれていたのでしょう。



しかし、全てが好きだったわけではなく、私自身の興味から外れると勉強は苦痛でしかなかったのも事実です。それを考えれば私自身が自分勝手に勉強をしただけだったんだと思います。実際それらのことが今実際に役に立っているかというところも疑問符を付けます。

ただ中高生にとって勉強が苦痛だというのはそれらのことから理解できることもあります。でも苦痛を伴わない勉強が将来あまり役に立たないことも理解しています。だから本当は様々なことに興味を持つことができるのは大変幸せなことなんだと思います。一つのことでもいいと思います。勉強そのものでもいいと思います。苦痛を伴う受験勉強が乗り越えられる力になるからです。私が教えた生徒の中にもたくさんいます。

どうしてもこの時期はこのようなことを考えてしまいます。最後に一つだけ。受験生は受験を終えたら興味を持つことが増えるようにチャレンジしてほしいです。アニメでもスポーツでもなんでもいいんです。でもその興味を持ったことにちょっと深く、何でこうなるんだろうと考えてみれば、また違った角度から興味を持てると思います。そ

うすれば勉強そのものの見方も変わって、苦痛だけではなくなると思いますよ。(岡本)

## ジキルとハイド

日々悩むことの多い皆さんに、ご紹介したい作品があります。ロバート・ステイブンスンの「ジキル博士とハイド氏」という小説です。二重人格者の話として有名ですが、この作品の面白さは、それだけではないのです。ジキル博士は資産家の家に生まれ、勤勉で、親切な医師として人々から尊敬されています。その一方で、自分を縛りつけている責任や義務、世間体から逃れて、好きなことばかりして暮らしてゆきたいという願望がとても強い人でした。ジキル博士の中の「善い自分」は、今の社会的地位を保ち、周囲からの信頼も失いたくない。それ故に暴力的で欲望に忠実な「悪い自分」を軽蔑していました。一方ジキル博士の中の「悪い自分」は、したいと思ったら、すぐに実行したくなる。それ故に、周囲の視線や自分の地位に左右され、自身の願望に背を向ける「善い自分」が嫌いで仕方がありませんでした。やがてジキル博士はこの「悪い自分」にハイド(隠れる)という名前をつけて、ジキルの中の二人は対立してゆきます。「私」と胎内で、両極端な双生児が反発し合っている」という一文が私にはとても印象的です。



このジキル博士の体験は、私達の心の中で起っている葛藤とよく似ていると思います。家族や先生の期待に応えたい、認められたい、友達よりもできると思われたい、自信を持ちたい……。といった「善い自分」の願望があります。それと同時に、一日中眠っていたい、苦手なものはやりたくない、失敗するのが怖いから挑戦したくない……。というような「悪い自分」の願望も存在します。私が一番伝えたいことは、悩んでいるからといって、苦しまないでほしい、ということ。悩んでいるということは、その人が幼いとか、弱いとか、未熟だとかいうのとは関係ありません。その人の中の「善い自分」と「悪い自分」がぶつかりあっているということです。大人になっても悩むことはたくさんありますし、「自分はダメだ」とか、「自分は完璧だ」と決めつけてしまっている人がぐんと成長する姿を私は見たことがありません。自分を追い込みすぎない程度に自分と向き合い、時間を無駄にしない程度に葛藤することは、むしろ必要なのではないかと思えます。見栄っ張りな自分を見下すハイドの姿は、悪でありながら純粋で、真直ぐに歪んでいて、どこか魅力的です。「ジキル博士とハイド氏」は、私の人生を大きく変えた本の一つです。

1 (高橋)

### ▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。